2016.11.16

食品衛生レビュー№91　安心を無視したラーメン店

10月12日夜、朝日新聞が「ラーメンに、人の親指の一部とみられる異物が混入していた」と報道しました。大手の店舗なのに、その対応が余りにもお粗末であったので概要をまとめました。そして、過去に同様な事故が過去にも発生していますので紹介し、対応策を述べます。

事故の発生

　9月10日に、大手ラーメンチェーンK社（東証1部上場）の静岡県内の店舗で、子どもが食べていたラーメンに、人の指先が混入しているのを、女性客が見つけた。その原因は前々日の8日に従業員がチャーシューの仕込み作業で左親指を切断していた。

行政対応

　12日客からの苦情で保健所が店側に事情聴取。13日保健所が店へ立ち入り調査。異物混入防止指導。16日保健所での「異物混入に関する講習会」に店長等が参加。

　保健所が「8日から10日の客に提供された分にも影響した恐れがあるとして、K社に報道発表するよう求めた」が、応じなかったとされる。

隠していたのが発覚

10月12日夜、朝日新聞が「ラーメンに、人の親指の一部とみられる異物が混入していた」と報道。翌日の13日、K社はホームページに「爪の一部が混入した商品を提供した」と謝罪文を掲載。

10月13日夜、、朝日新聞が「長さ約７～８ミリ、幅約１センチ、厚さ約５ミリの爪のついた指先だった」と報道。14日、K社は前日の謝罪文を削除。

　10月17日、ホームページに事故の概要を掲載（下記）し、「指先が提供した」と認めた。

|  |
| --- |
| 事案の概要：ラーメンへの異物（人の指）の混入1. 平成 28 年９月８日当該店舗従業員がハムスライサーを使ってチャーシューの仕込み作業を 行った際、左親指を切ってしまう事故が発生しました。当該従業員はすぐに病院にて手当を受 けると同時に、スライス中であった機械の上にあるチャーシューを廃棄いたしました。
2. チャーシューの仕込み中には仕込み担当者はゴム手袋を着用して作業を行っておりますが、 事故当時、ゴム手袋の指先部分は切断されずにつながったままであった為、指欠損部分を探す ことを失念し、スライサー周辺を探すことはしませんでした。
3. この際、既に仕込み済みのチャーシューについては、廃棄処分とせずに、仕込み済み食材と して、そのまま厨房内の所定場所に保管いたしました。
4. チャーシューについては、本来、当社内の使用基準に従い 24 時間で廃棄し、その目安とし て、仕込み時間を示すシールを容器に貼って保管することとなっておりますが、作業時の従業 員の受傷事故への対応と混乱から、容器にシールを貼り忘れたまま、保管してしまいました。
5. その結果、チャーシュー保管容器が冷蔵庫内にて混在してしまい、また、その中に混入して いた　指の欠損部分に気付かないまま、平成 28 年９月 10 日にご来店いただいたお客様の商品内 に混入してしまいました。
 |

後始末

　10月18日、9月8日から10日に当該店を利用者に返金すると発表。

　10月21日、27日に店長への衛生・安全教育等のために全店舗休業すると発表。

事故対応の問題点

　事故防止対策をしても事故は発生する。そのために事故発生後の対応策が必要である。事故発生後の従業員の感染症の疑い無かっとされ、安全性は確保されたのかもしれない。しかし、安心とは精神的なものであり、発見した客の安心は無視したと言える。新聞報道後で知った3日間の客も同様である。新聞報道で10月13日に謝罪文をホームページに「爪が混入した」と虚偽の公告をしている。詳細を公告したのは事故発生後40日経過している。危機意識が低く、事故を隠していたと言える。

同様な事件

　1989年神奈川県内で製造されたジャムパンを東京都内の住民が食べたところ、指先が出てきたという事故が発生している。工場の従業員が、ジャムを入れる機械に手を挟まれ、中指を切断した。一部を廃棄したが、出荷品の中に中指の先が入ったまま販売したためであった。ラーメン店の事故同様「一部廃棄したから混入していないだろう」で事件である。

まとめと対応策

　ラーメンへの指先混入事件は、事故発生時に危機意識が低く「**だろう**」で始まった事件と考える。その後の対応も実にお粗末であった。

事故防止対策は重要であり、各企業とも防止マニュアルを作成している。事故発生後の対応策も必要であり、事故の重大性により区分、責任の所在を明確にする必要がある。今回の事件では本社の品質管理を担当する役員の危機意識が低く「安心を無視」した結果と考える。（笈川　和男）